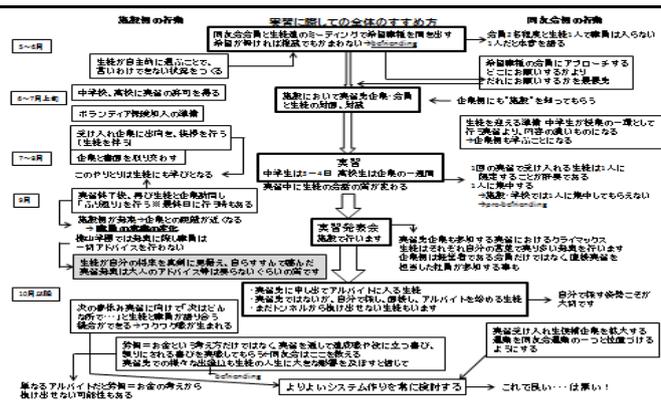


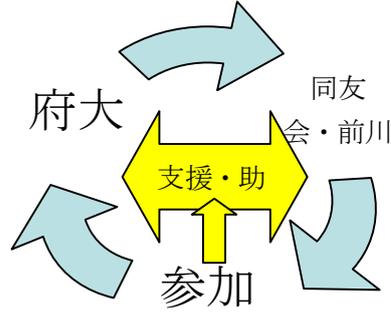
平成25年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A 8	取組 名称	社会的養護の下で育つ子どもたちの自立支援と中小企業の役割
研究代表者：公共政策学部（研究科）		職・氏名：教授 津 崎 哲 雄	
研究担当者： 京都府立大学（津崎哲雄 三宅真理子（敬称略）） 外部分担者・協力者（楠本貞愛氏、前川順氏 ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都中小企業家同友会・児童養護施設（桃山学園・迦陵園）など			
【研究活動の要約】			
<p>社会的養護（自宅で暮らせない子を社会的に養育すること）で育つ子どもが児童養護施設や里親家庭を離れ、社会に出て就職し一人暮らしになると、直ぐに仕事を辞めたり、職場が変わったり、不安定な暮らしに陥ることが少なくない。府下の中小企業家がそうした施設で暮らす中高生に就労準備として長期休暇に実習を受け入れ、就労準備・適職探しの機会を予め社会に出る前に提供し、併せて受け入れ側と中高生の間関係性を樹立させ、彼らが社会に巣立った後も、気軽に物事を相談できる「おっちゃん、おばちゃん」として支える実践を行っている。この実践を府下に広げるべく、実践の論理化と啓発とネットワーク化を府大が仲立ちとなり、進めてきた。実践を記述したブックレットを作成・配布すると共に、中小企業家・施設職員・児童相談所・里親などを対象に実践の紹介と意見交換の集会を催し、多数の関係者の参加を得て、プロジェクトの認識が府下の児童福祉分野において広まった。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>このプロジェクトは府下の児童養護施設・府立桃山学園の中高生を対象として、京都中小企業家同友会の有志がヴォランティア活動として実践してきたのであるが、実践を解説するブックレット配布や啓発講演会、および二度の研修会を通じて、児童養護施設で暮らす子どもに必要な就労準備支援の一環としての長期休暇時における中高生の職場実習がいかに適職探索として有効であるか、受け入れる側と中高生の間関係性が社会的自立後のリスク回避に有効である可能性が高いこと、が多くの関係者に認識された。中小企業家の自発的な活動が社会的貢献として実質的意義を持つことを実証したことは、中小企業家のみならず児童福祉関係者の理解を進めることとなり、桃山学園以外に新たな施設が本プロジェクトに参加し、中高生を実習に送り出すこととなり、実習参加中高生がほぼ倍増した。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>1 平成25年10月18日金曜日午後2～4時：会場・京都府立大学・大学会館2階多目的ホール：中小企業家・施設長/職員・里親・児童相談所・行政/教育関係者などを中心に約110名。「第1回京都社会的共同親プロジェクト・みんなで拓こう 子どもの未来」</p> <p>2 『ACTR 社会的共同親プロジェクトブックレット第1号：施設・里親家庭で暮らす子どもの未来を拓く：ある中小企業家の歩みと思い』（残部700冊無料配布可・府大図書館で閲覧可）</p> <p>3 ACTR 社会的共同親プロジェクト報告書『京都府立大学 ACTR 社会的共同親プロジェクト・みんなで拓こう 子どもの未来 報告書』（残部150部無料配布可・府大図書館で閲覧可）</p>			
<p>【お問い合わせ先】 公共政策学部（研究科） 津崎哲雄研究室 職（教授）・氏名 津崎哲雄 Tel: 075-703-5328 E-mail: tsuzaki@kpu.ac.jp</p>			

参考（イメージ図、活動写真等）



1 本事業の就労準備実習の流れ図（左図）およびネットワークの簡単なイメージ図（右図）



2 10月18日のACTR社会的共同親プロジェクト講演会の様子



3 桃山学園における実習参加中高生の報告会

実習終了後の報告会の様子

